



日本国際教育学会

JIES NEWSLETTER

February 2020 No. 31

ニューズレターダイジェスト

- 学会長挨拶
- 第30回記念大会報告
- 第30回総会報告
- 決算報告及び予算
- 『国際教育』第26号原稿募集
- 第31回大会のご案内
- 2019年度学会役員一覧
- 事務局だより



第30回記念大会 公開シンポジウムⅠ
「国際教育学の課題と方法を考える
-ポストコロナルの先住民族教育研究を踏まえて-」



第30回記念大会 公開シンポジウムⅡ「仏教の国際化と教育」

学会長挨拶

学会創立 30 周年を迎えて

佐藤千津（国際基督教大学）

2020 年を迎えました。今年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年でもあります
が、1990 年 8 月 8 日設立の本学会にとっては創立 30 周年を迎える大きな節目の年です。

すでに昨年より創立 30 周年を記念するイベントが実施されております。まず、学会創立
30 周年記念論集を明石書店より刊行する企画を進めております。公募論文には 5 本のエン
トリーがあり、研究論文 1 本、研究ノート 1 本の掲載を決定しました。特集論文などを含め、
編集作業を鋭意進めているところです。

次に、30 回目を記念する第 30 回研究大会が京都の大谷大学で 9 月に開催されました。京
都での開催は 20 年振りの 2 度目でした。当初は、千葉県を中心に大停電など甚大な被害を
もたらした台風 15 号の進路にあたっていたため、開催が危ぶまれました。その影響で残念
ながら参加者はあまり多くありませんでしたが、シンポジウムにお招きした遠来のゲスト
をはじめ、オーストラリア、台湾、ウクライナなど、国内外から会員のみならず会員以外の
皆様にもご参加いただき、小規模ながら充実した大会となりました。会期中には、台湾の楊
武勲理事から台湾比較教育学会のジャーナルへの投稿募集や、ゼーン・ダイヤモンド理事か
らはオセアニア比較国際教育学会との研究交流の促進が提案されるなど、今後の更なる国
際交流活動を展望する良い話がありました。また、北海道大学のジェフリー・ゲーマン会員
には特任理事としてグローバルリエゾンに尽力していただくことにもなりました。

創立 30 周年を迎える第 31 回大会は、北海道教育大学釧路校の玉井康之会員を大会実行
委員長とし、札幌駅近くの北海道立道民活動センターにて開催されます。本学会の大会を北
海道で開催するのは初めてのことで、30 年の節目にふさわしい大会とすべく着々と
準備を進めております。今年 4 月には北海道白老町ポロト湖畔にアイヌ文化復興・創造の拠
点として「民族共生象徴空間（ウポポイ）」がオープンするようですが、公開シンポジウム
は「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点ー」と題し、21 世紀
の共生社会の在り方について、アラスカ州の先住民族研究を手がかりに検討することを考
えております。加えて、今後の国際教育分野の研究と実践の可能性について議論を深めるた
め、2 本の課題研究を企画しております。どうぞご期待くださり、多くの皆様にご参加いた
だきますようお願い申し上げます。

本学会の次の 30 年に向け、今年も皆様と有意義な時間を共有できましたら幸いです。

今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第30回記念大会報告

日本国際教育学会第30回記念大会報告

大会実行委員長 田中潤一（大谷大学）

2019年9月7日（土）、8日（日）にわたって、第30回記念研究大会が大谷大学（京都市北区）において開催された。今大会は第30回の記念研究大会となり、例年はシンポジウムが1つであるが、今回はシンポジウム2つ、課題研究が1つ、6分科会（21件の発表）が開催された。参加者は70名（登壇者および学生11名を含む）となり予定していたよりは多くの方々にご参加いただいた。1日目の午前には課題研究「国際比較から見る教員の働き方改革」が行われた。近年我が国でも大きな課題となっている教員の働き方のあり方について岩崎正吾会員、大谷杏会員、永田祥子会員、西村貴之会員から日本、アメリカ、イギリス、フィンランドのそれぞれの現状報告が行われた。その後、質疑応答が行われ、活発な議論が行われた。諸外国から見て、日本の教員の働き方に欠けているもの、共通するもの、優れているものが活発に論議された。日本の教員の働く実態がより鮮明になり、教育現場の課題解決の糸口になると期待される発表となった。午後は自由研究発表「ヨーロッパの教育」、「アジアの教育」、「日本の国際化と国際交流」の3部会が行われた。

シンポジウムⅠでは「国際教育学の課題と方法を考える—ポストコロニアルの先住民族教育研究を踏まえて—」のテーマについて発表が行われた。報告者にジェフリー・ゲーマン会員、平取町立アイヌ文化博物館の関根健司氏を、そしてコメンテーターに萱野茂二風谷アイヌ資料館の萱野志朗氏をお迎えして、論議が重ねられた。国際教育学の視点から、先住民族の教育研究、とりわけアイヌ、アラスカの先住民族とニュージーランドマオリ族の民族教育の研究成果・実践成果の報告が行われた。最初にゲーマン会員より、アラスカ州の先住民族の教育運動の研究成果から、アイヌ民族の教育問題が言及される。アイヌの権利回復運動の形骸化が指摘され、教育プログラムにアイヌの視点を優先的に取り入れる必要性が述べられる。次に関根氏より、自身のニュージーランドのマオリ族の現地研修を参考にして、日本でも学校現場で、教職員にアイヌ文化の知識を深めてもらい、アイヌ文化の保存、特にアイヌ語の会話の習得に力を入れ、アイヌ民族が誇りを持って生活できる環境づくりの大切さに言及された。関根氏は公立学校の中で、アイヌ語、アイヌ文化伝承の教育に携わってこられ、その実践についての貴重な発表がなされた。最後にコメンテーターの萱野氏より、自身の経験からアイヌ民族文化の保存の問題点が指摘され、アイヌ言語復興の必要性が力説された。報告後、活発な質疑応答が行われ、少数民族の文化伝承をわれわれ自身のアイデンティティ確認の問題として受けとめることが出来、教育の本質に迫るシンポジウムであった。参加者は40名を超え、多くの方々の参加がこのテーマへの世の関心の高さをうかがわせるものとなった。夕刻に行われた情報交換会も30名以上の先生方にご参加いただき、午前、午後の発表についての更なる議論が深められた。

翌日8日午前にはシンポジウムⅡ「仏教の国際化と教育」が行われた。報告者にゼーン・ダイヤモンド会員、前同朋大学長の太田清史氏、大谷大学専任講師のマイケル・コンウェイ氏をお迎えした。コンウェイ氏からはアメリカにおける仏教の普及の現状について報告がなされ、アメリカにおいては理性的で平和的な宗教として認知されているものの、

全人口の0.7%に止まっていることも同時に報告された。キリスト教が主流を占めている国での仏教の普及の難しさが指摘された。ダイヤモンド会員からは、オーストラリアなどこれまで仏教が普及していなかった国々における仏教教育の実態の説明があり、なぜそれらの国々で仏教が普及することになったのかが報告された。最後に太田氏からは日本における真宗大谷派の仏教教育の現状について実践者の立場からの報告がなされた。これらの議論により、世界の宗教の中の仏教の位置づけが参加者全員に認識されるという大きな成果があった、このシンポジウムには仏教タイムズ、中外日報の記者による取材が行われ、後日両紙の記事として取りあげられた。

午後には自由研究発表が「中国・東アジアの教育」、「アジア・オセアニアの教育」、「日本の国際化と国際交流」の3部会行われ、活発な議論が行われた。16時には全日程が無事終了した。当日は台風15号が接近していたが、大会の進行には直接影響を及ぼさなかった。大会開催にあたりまして、学会会長、副会長、事務局長をはじめ理事の皆様にも多くのご支援・アドバイスをいただきました。ありがとうございました。私自身大会運営に不慣れなため、関係各位には様々なお迷惑をおかけしたと存じます。また当日各部会の司会をお引き受けいただきました先生方にも厚くお礼申し上げます。

大会開催が無事終了いたしましたことを、全ての学会員のみなさまに厚くお礼申し上げます。

大会の感想

大谷 杏（福知山公立大学）

今回の記念すべき第30回記念大会は、大会実行委員メンバー、自由研究発表の第6部会の司会者、課題研究「国際比較から見る教員の働き方改革」の発表者の一人として携わらせていただきました。田中大会実行委員長と大谷大学の方々が事前に万全の準備をしてくださっていたことから、当日の大会実行委員の仕事は大変スムーズに進みました。

課題研究では、日本、イギリス、フィンランドの各報告者の先生方と共にアメリカ合衆国の教員の働き方と待遇について報告し、最終的にはフロアの皆様も含めて、今後の日本の教員の労働環境改善へ向けた意見交換を行う貴重な機会をいただきました。学会には、国家・地域横断的な諸問題の解決に貢献していくことが求められており、課題研究やシンポジウムに限らず、このような各国比較・意見交換の場が設けられることが理想的です。そのためには、国内の参加者のみならず、海外からの参加者にも大いに活躍していただくことが期待されます。

また、今回は大谷大学での開催ということから、仏教関連の公開シンポジウム「仏教の国際化と教育」を拝聴させていただきました。学会の開催校企画は地域的特色に焦点を当てられることが多い中で、今回は私学の宗教系学校である開催校の基盤を成す仏教（浄土真宗）思想について学ばせていただく機会を得られたこと、これが個人的には一番大きな収穫であったと感じております。また、北大路駅真上という抜群のアクセスと、最新設備を備えた素晴らしい環境を利用させていただけたことも大変光栄でした。

第 30 回総会報告

日時：2019 年 9 月 7 日（土） 17 時 30 分～18 時 15 分
会場：大谷大学 慶聞館 4 階 K409 教室

開会の辞
会長挨拶
会場校挨拶
議長団選出

I 報告事項

1. 2018 年度（2018 年 8 月 1 日～2019 年 7 月 31 日）会務報告
 - (1) 学会（会員数）の現況
 - (2) 2018 年度活動報告
 - (3) 2018 年度決算報告
2. 2018 年度会計監査報告
3. 各種委員会等の活動報告
 - (1) 紀要編集委員会
 - (2) 研究担当
 - (3) 国際交流担当
 - (4) 紀要電子化推進委員会
 - (5) 学会創立 30 周年記念論集編集委員会
4. 特任理事の選任について
5. その他

II 審議事項

1. 2019 年度（2019 年 8 月 1 日～2020 年 7 月 31 日）事業計画案について
 - (1) 2019 年度活動計画案
 - (2) 2019 年度予算案
2. 第 31-32 期役員選挙選挙管理委員の選任について
3. 第 31 回研究大会の開催日程及び会場について
4. その他

III その他

議長団解任
閉会の辞

以上

日本国際教育学会紀要『国際教育』第26号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第26号の発刊に際し、自由投稿研究論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします（2020年3月1日必着）。本学会公式ウェブサイト（<http://www.jies.gr.jp/>）の「学会紀要」のページで「編集規程」および「投稿要領」に関する最新情報を確認するようにしてください。

CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 26

Submissions to the 26th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2020. Authors making submissions in English should review the Additional Guidelines for English Manuscripts. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (<http://www.jies.gr.jp/>) before submission.

第31回研究大会のご案内

大会実行委員長 玉井康之（北海道教育大学釧路校）

この度理事会より次年度大会の要請を頂き、2020年の第31回研究大会の開催は北海道教育大学が担当させて頂くことになりました。開催日は、2020年9月5日（土）午前9時半から9月6日（日）15時とさせて頂きました。開催場所は、実行委員が北海道教育大学釧路校教員であるために、釧路校での開催も考えたのですが、会員の皆様の交通の便を考え、札幌駅近くの「北海道立道民活動センター かでる2・7」で開催することにしました。

シンポジウムは大会実行委員会としては、アラスカの教育政策やへき地校の具体的な教育実践活動を通じて、先進的な先住民族政策をとらえたいと考えています。アラスカでは人口の4分の1が先住民族であり、教育政策においても学校教育活動においても、様々な方策を推進している先住民族研究の先進地です。

北海道は遠いですが、多くの地域で札幌直行便が出ていますので、比較的交通の便は良いと思います。9月は観光としてもいい季節ですので、ぜひお越し頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

1. 日時：2020年9月5日（土）9時半～9月6日（日）15時
2. 場所：札幌市かでる2・7北海道立道民活動センター（札幌市北区北2西7）

2019年度 日本国際教育学会役員一覧

理事会

役職	氏名	所属	担当
会長	佐藤 千津	国際基督教大学	
副会長	小川 佳万	広島大学	
理事	岩崎 正吾	首都大学東京(名誉教授)	学会賞
同	太田 浩	一橋大学	研究大会(第29回)
同	大庭 由子	安田女子大学	ニューズレター
同	金塚 基	東京未来大学	研究
同	北野 秋男	日本大学	紀要
同	栗栖 淳	国土舘大学	紀要
同	坂内 夏子	早稲田大学	事務局
同	白幡 真紀	東北大学(博士研究員)	総務
同	田中 潤一	大谷大学	研究大会(第30回)
同	服部 美奈	名古屋大学	紀要
同	前田 耕司	早稲田大学	研究
同	Zane Diamond	Monash University	国際交流
同	楊 武勳	国立暨南国際大学	国際交流
同	吉田 尚史	福岡女学院大学	規程
特任理事	Jeffrey Gayman	北海道大学	グローバルリエゾン

事務局

役職	氏名	所属
事務局長	坂内 夏子	早稲田大学
事務局次長	黒木 貴人	広島文化学園短期大学

会計監査

役職	氏名	所属
会計監査	田中 達也	釧路公立大学
同	西村 貴之	北翔大学

各種委員会

役職	氏名	所属
紀要編集委員会 委員長	北野 秋男	日本大学
同副委員長	栗栖 淳	国土舘大学
同委員	大迫 章史	東北学院大学
同	Jeffry Gayman	北海道大学
同	澤田 敬人	静岡県立大学
同	下田 誠	東京学芸大学
同	玉井 康之	北海道教育大学
同	服部 美奈	名古屋大学
同幹事	大泉 早智子	日本薬科大学
同	薩 茹拉	日本大学大学院（院生）
学会賞選考委員会 委員長	岩崎 正吾	首都大学東京（名誉教授）
同委員（紀要編集委員兼任）	澤田 敬人	静岡県立大学
同	森岡 修一	大妻女子大学
同	赤尾 勝己	関西大学
同	福田 誠治	都留文科大学
同幹事	木田 竜太郎	有明教育芸術短期大学
紀要電子化推進委員会 委員長	白幡 真紀	東北大学（博士研究員）
同委員	高橋 春菜	盛岡大学
学会創立 30 周年記念事業企画委員会 委員長	前田 耕司	早稲田大学
同委員	金塚 基	東京未来大学
同幹事	趙 天歌	早稲田大学大学院（院生）
学会創立 30 周年記念論集編集委員会 委員長	佐藤 千津	国際基督教大学
同委員	太田 浩	一橋大学
同	小川 佳万	広島大学
同	田中 潤一	大谷大学
同	服部 美奈	名古屋大学
同	前田 耕司	早稲田大学
同幹事	新関 ヴァッド郁代	産業能率大学（非常勤）
第 31-32 期役員選挙 選挙管理委員会 委員	田中 真奈美	東京未来大学
同	金山 光一	早稲田大学（非常勤）
同	蘇 佩怡	早稲田大学（非常勤）
同	新関ヴァッド郁代	産業能率大学（非常勤）

事務局だより

1. 連絡先・ご所属変更を至急お知らせください。

所属変更等にもとない会員資格や連絡先に変更がある方がおられましたら、事務局までメール (jies_jimukyoku@jies.gr.jp) にてご一報ください。

2. 会費納入のお願いについて

会費納入にご協力を宜しくお願い申し上げます。なお、請求書と行き違いに既に納入済の場合はご容赦ください。

郵便振替口座名義：日本国際教育学会 口座番号：00130-7-124562

ゆうちょ銀行 〇一九 店（ゼロイチキユウ店）当座 0124562

3. 新入会員

2018年度第3回理事会（2019年4月26日）	4名入会
2019年度第1回理事会（2019年9月7日）	6名入会
2019年度第2回理事会（2019年12月21日）	9名入会

日本国際教育学会 Newsletter No.31

編集発行 日本国際教育学会 代表 佐藤千津

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

発行所 早稲田大学教育学部 坂内夏子研究室気付

jies_jimukyoku@jies.gr.jp

<http://www.jies.gr.jp>

発行年月日 2020年2月10日